

2021年3月期 第2四半期(中間期) 決算説明参考資料

株式会社中京銀行
2020年11月11日



いちばんに相談したい銀行



(東証・名証第1部 証券コード:8530)

A member of
 MUFG

1. 2020年度中間期決算の概要(P / L)	P 3
2. コア業務純益の内訳	P 4
3. 2020年度中間期決算の概要(B / S)	P 5
4. 貸出金の状況	P 6
5. 役務収益の状況	P 7
6. 有価証券の状況	P 8
7. 自己資本比率と配当の状況	P 9
8. 与信管理の状況	P 10
9. 2020年度の業績予想	P 11
10. 新型コロナウイルス感染拡大への対応	P 12

1. 2020年度中間期決算の概要(P / L)

- 資金利益、役務利益の増加と、経費削減により実質業務純益は増益
- 信用コストが増加したものの、本業利益の回復と有価証券関係損益でカバー

(億円、%)

資金利益 95億円
(前年同期比+3億円)

新型コロナウイルス感染症の影響への対応により貸出金が増加し、貸出金利息が増加

信用コスト 23億円
(前年同期比+9億円)

大口先の業績悪化により引当金の積み増しを実施

コアOHR 80.7%
(前年同期比▲7.0ポイント)

コア業務粗利益の増加と経費削減により7.0ポイント改善

《単体 P / L》		19年度 (中間期)	19年度	20年度 (中間期)	前年同期比
1	業務粗利益	106	205	111	5
2	うち資金利益	92	188	95	3
3	うち役務利益	10	21	11	1
4	経費(▲)	87	170	86	▲ 1
5	実質業務純益	19	34	24	5
6	うち国債等債権損益(5勘定戻)	7	▲ 1	3	▲ 4
7	信用コスト(▲)	14	17	23	9
8	うち不良債権処理額(▲)	11	13	16	5
9	うち一般貸倒引当金繰入(▲)	2	3	6	4
10	有価証券関係損益	24	21	25	1
11	債券	7	▲ 1	3	▲ 4
12	株式	17	23	22	5
13	その他臨時損益	▲ 1	▲ 1	▲ 1	0
14	経常利益	21	39	21	0
15	特別損益	▲ 0	▲ 0	▲ 0	▲ 0
16	法人税等(▲)	5	7	8	3
17	当期純利益	15	31	13	▲ 2
18	コアOHR(経費/コア業粗)	87.7	82.4	80.7	▲ 7.0

2. コア業務純益の内訳

- 新型コロナウイルス感染症の影響への対応により貸出金が増加し、貸出金利息反転
- 法人関連の役務収益が金融商品販売の落ち込みをカバーし、役務利益が増加

(億円)

《単体 P / L》		19年度	19年度	20年度		
※除く国債等債券損益		(中間期)		(中間期)	前年同期比	
1	コア業務粗利益※	99	206	107	8	
2	うち資金利益	92	188	95	3	
3	うち貸出金利息	62	123	64	2	
4	うち預金利息(▲)	1	2	1	0	
5	うち有価証券利息	35	76	35	0	
6	うち役務利益	10	21	11	1	
7	うち役務収益	21	44	22	1	
8	うち役務費用(▲)	11	22	11	0	
9	うちその他業務利益	▲ 3	▲ 3	▲ 0	3	
10	経費(▲)	87	170	86	▲ 1	
11	人件費	45	89	46	1	
12	物件費	34	68	33	▲ 1	
13	税金	6	12	7	1	
14	コア業務純益	12	36	20	8	
15	(除く投資信託解約益)	5	21	15	10	
【残高(平残)・利回り】 (億円／%)						
16	貸出金	平残	12,660	12,759	14,128	1,468
17		利回り	0.98	0.97	0.91	▲ 0.07
18	預金	平残	17,500	17,533	18,397	897
19		利回り	0.01	0.01	0.01	0
20	有価証券	平残	4,971	4,982	4,634	▲ 337
21		利回り	1.42	1.53	1.53	0.11

貸出金利息 前年同期比+2億円

【貸出金利息増減要因】

要因	増減額
残高	+6
利回り	▲ 4
合計	+2

新型コロナウイルス感染症の影響への対応により貸出金平残が増加

役務収益 前年同期比+1億円

経営支援等ソリューション提案を強化し法人関連の役務収益が増加、営業活動自粛による金融商品販売の落ち込みをカバー

その他業務利益 前年同期比+3億円

外貨建て運用の圧縮により、調達コストが改善

経費 前年同期比▲ 1 億円

経費削減などにより物件費が減少

3. 2020年度中間期決算の概要(B / S)

貸出金 前年同期比 + 1,929億円

積極的な資金繰り支援により、中小企業を主体に大きく増加

預金 前年同期比 + 1,053億円

事業先を主体に手元資金を確保する動き

有価証券 前年同期比 ▲ 1,068億円

国債償還とコロナ・ショックへの対応により残高圧縮

不良債権比率 1.71%
(前年同期比 ▲ 0.19ポイント)

大口先の業績悪化により開示債権は7億円増加
不良債権比率は貸出金増加により低下

自己資本比率 8.29%
(前年同期比 + 0.04ポイント)

貸出金増加の一方、有価証券残高の減少によりリスクアセットは微増に止まり自己資本比率は改善

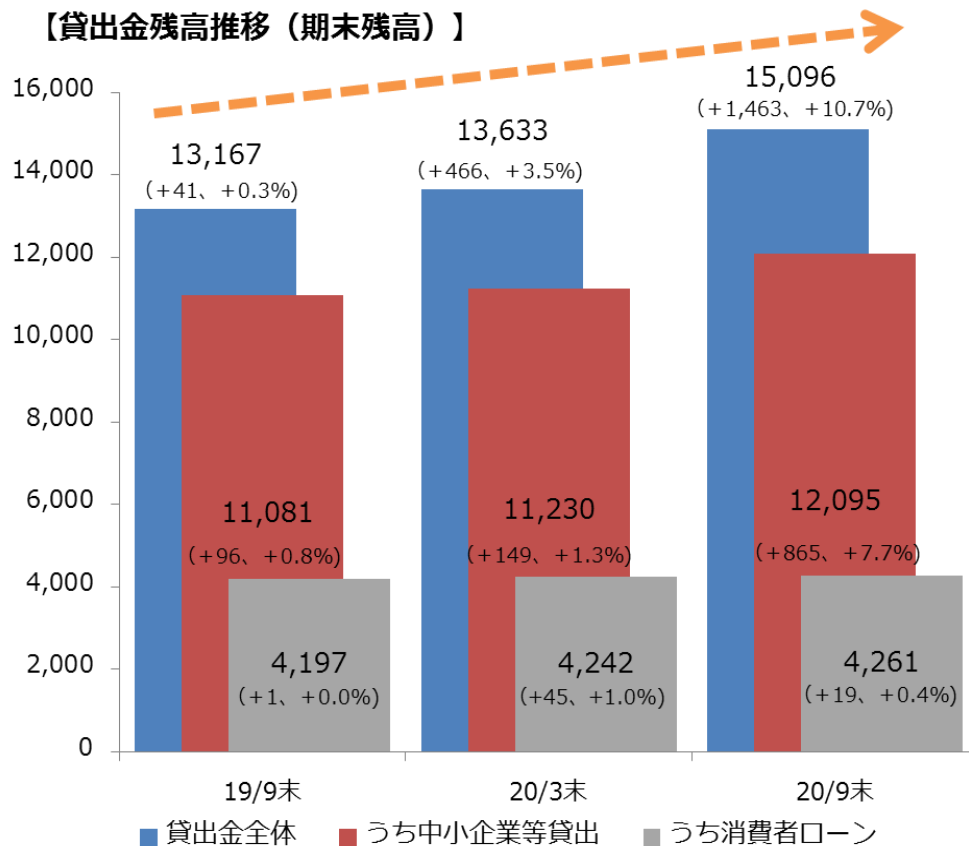
(億円、%)

《単体B / S》		19年度 (中間期)	19年度	20年度 (中間期)	前年同期比
1	貸出金	13,167	13,633	15,096	1,929
2	うち中小企業等貸出	11,081	11,230	12,095	1,014
3	うち消費者ローン	4,197	4,242	4,261	64
4	うち住宅ローン	4,074	4,117	4,138	64
5	預金	17,915	17,754	18,968	1,053
6	うち個人預金	11,577	11,636	11,928	351
7	うち法人預金	6,338	6,117	7,040	701
8	有価証券	5,286	4,932	4,218	▲ 1,068
9	うち評価損益	339	80	119	▲ 220
10	金融再生法開示債権	255	251	262	7
11	不良債権比率	1.90	1.81	1.71	▲ 0.19
12	リスクアセット	10,860	11,087	10,930	70
13	自己資本比率	8.25	8.09	8.29	0.04

4. 貸出金の状況

- 愛知県を主体に貸出金は半期 10.7%増加、中小企業等貸出では半期 7.7%増加
- 国債の償還に対し前年度末に大企業向け融資を増加させた結果、利回りの低下幅は拡大

【貸出金残高推移（期末残高）】

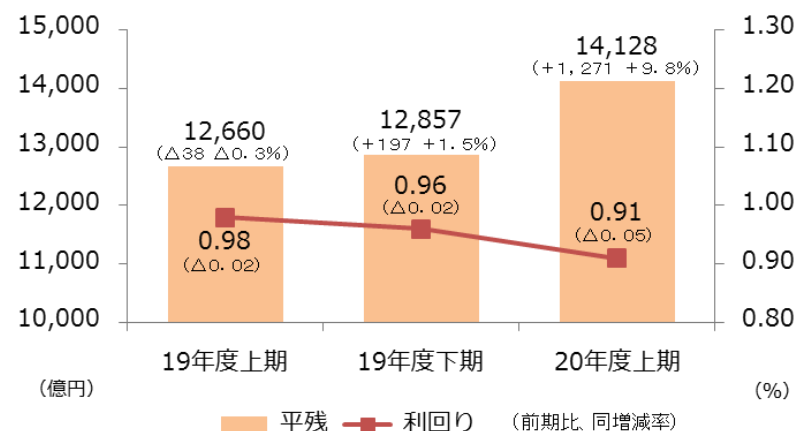


【地域別貸出残高】

(単位：億円)

	19/9末	20/3末	20/9末	前期末比
愛知県	10,198	10,470	11,400	930
三重県	1,393	1,377	1,489	112
東京都	973	1,162	1,423	261
その他	603	624	784	160
合計	13,167	13,633	15,096	1,463

【貸出金平残・利回り推移】



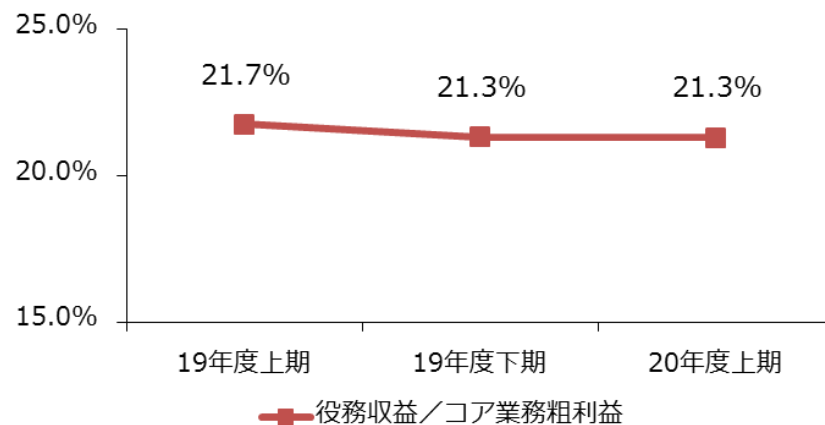
5. 役務収益の状況

- 事業先の経営支援強化により法人関連の役務収益が大幅に増加
- コロナ禍による営業活動自粛の影響により金融商品販売が振るわず、個人関連の役務収益は減少

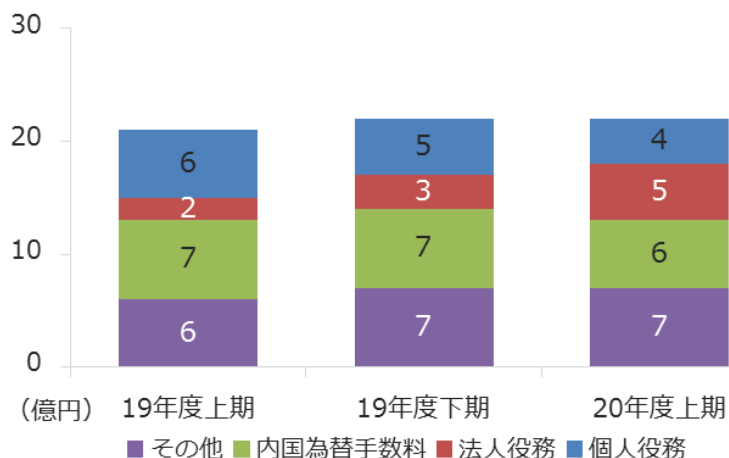
【役務収益の内訳】

	(億円)			
	19年度 上期	19年度 下期	20年度 上期	前年同期比
役務収益	21	22	22	1
法人役務	2	3	5	3
個人役務	6	5	4	▲ 2
うち投資信託手数料	3	3	3	0
うち生命保険手数料	2	2	1	▲ 1
内国為替手数料	7	7	6	▲ 1
その他	6	7	7	1

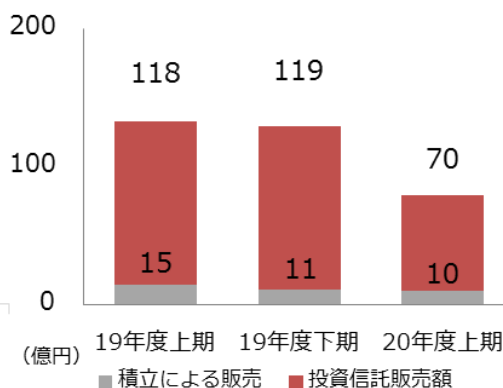
【役務収益比率の推移】



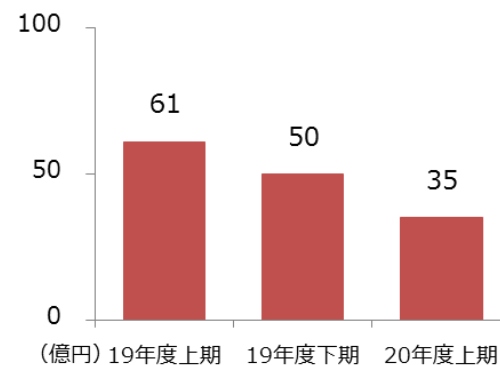
【役務収益推移】



【投信販売額推移】



【生保窓販 販売額推移】



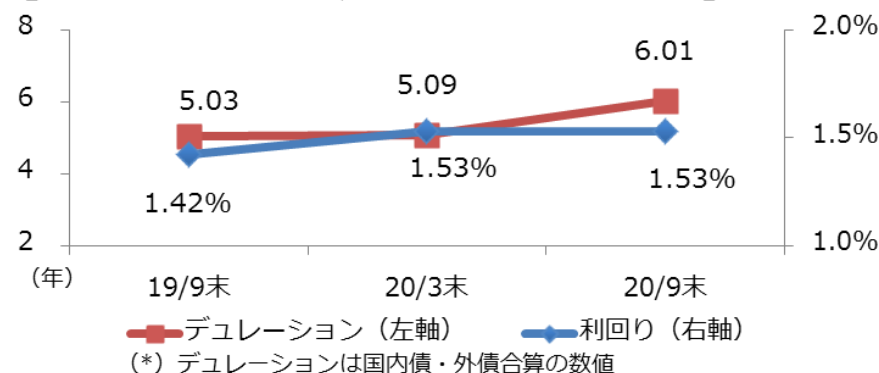
6. 有価証券の状況

□ 国債の償還とコロナ・ショックへの対応のため、有価証券残高を縮減

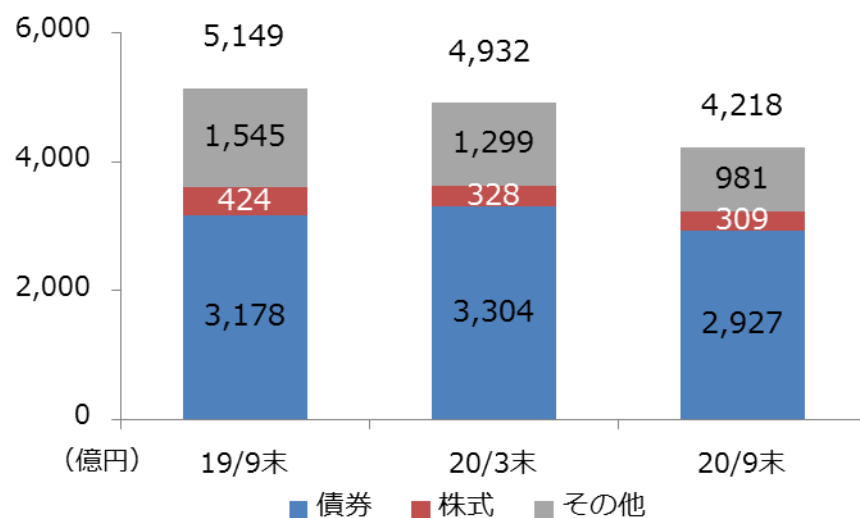
	19年度 (中間期)	19年度 (中間期)	20年度 (中間期)	前年同期比
有価証券利息配当金	35	76	35	0
うち投資信託解約益	6	14	5	▲ 1

(億円)

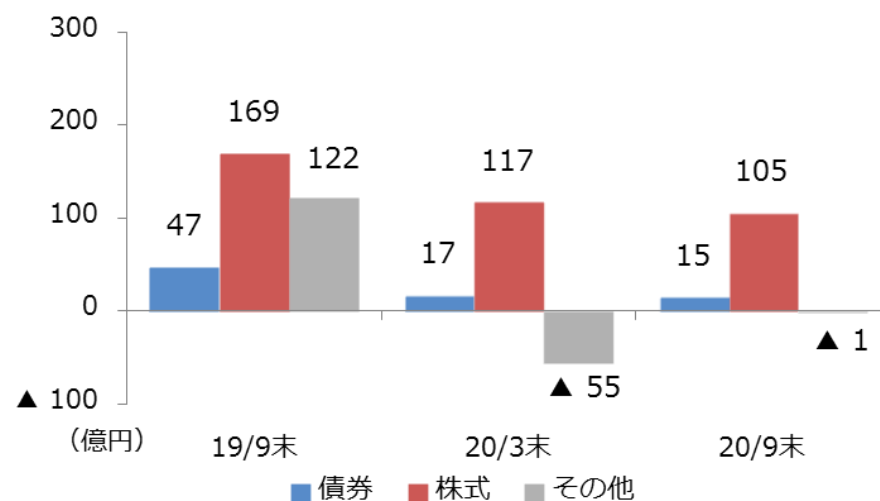
【有価証券運用利回り、デュレーション(*)の推移】



【有価証券残高の構成】



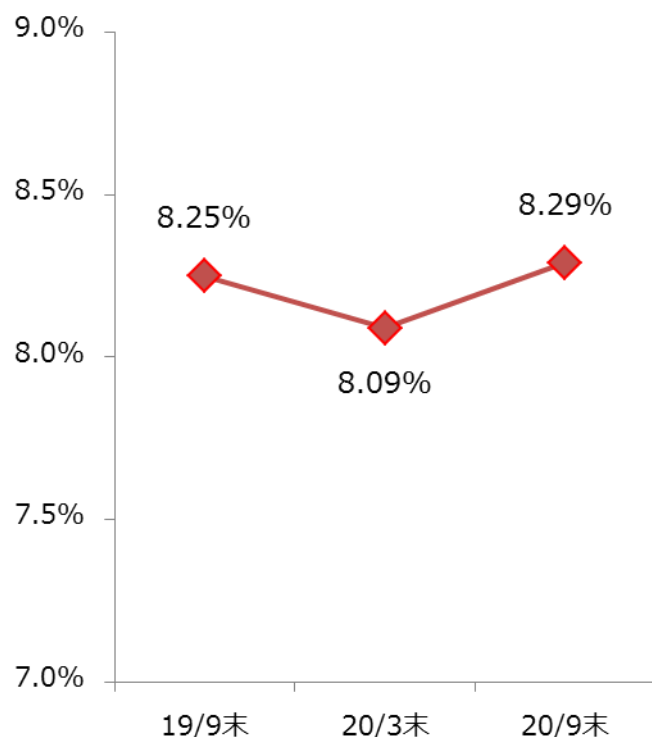
【有価証券の評価損益】



7. 自己資本比率と配当の状況

□ 有価証券残高減少によりリスク・アセットが減少し、自己資本比率は0.2ポイント改善

【自己資本比率の推移(単体)】



【自己資本比率の状況(単体)】

(億円、%)

	19/9末	20/3末	20/9末	前年度末比
(1)自己資本比率 (2)/(3)	8.25	8.09	8.29	0.20
(2)自己資本の額	896	897	906	9
(3)リスク・アセットの額	10,860	11,087	10,930	▲ 157

【配当の基本方針】

健全経営の観点から、内部留保の充実に留意しつつ、株主の皆さまに対し、安定的・継続的な配当を維持していく。

【配当の状況】

	19年度		20年度(予想)	
	中間	期末	中間	(期末予想)
配当金	20円	20円	20円	20円
配当性向(単体)	27.8%		33.4%	

8. 与信管理の状況

- 大口先の業績悪化により信用コストが増加。将来に備え一般貸倒引当金を積増し
- 不良債権比率は1.71%と低位安定

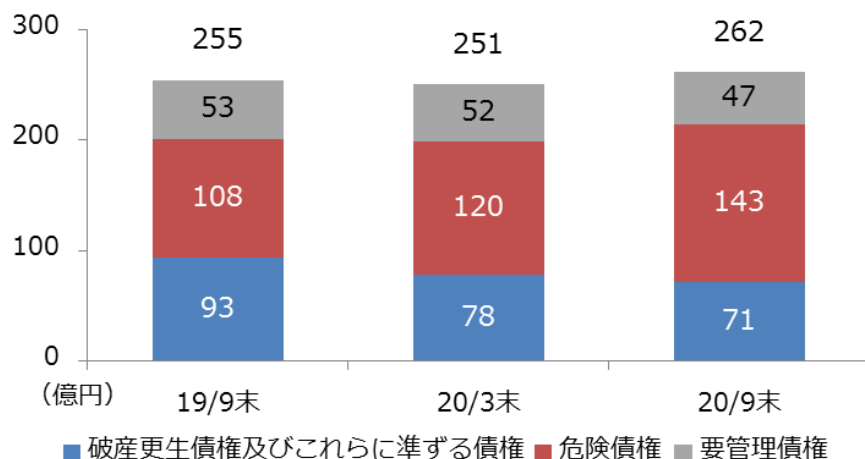
【与信コストの状況】

	19年度 (中間期)	19年度	20年度 (中間期)	(億円) 前年同期比
個別貸倒引当金繰入額	9	10	15	6
一般貸倒引当金繰入額	2	3	6	4
偶発損失引当金等	1	3	1	0
与信コスト計	14	17	23	9

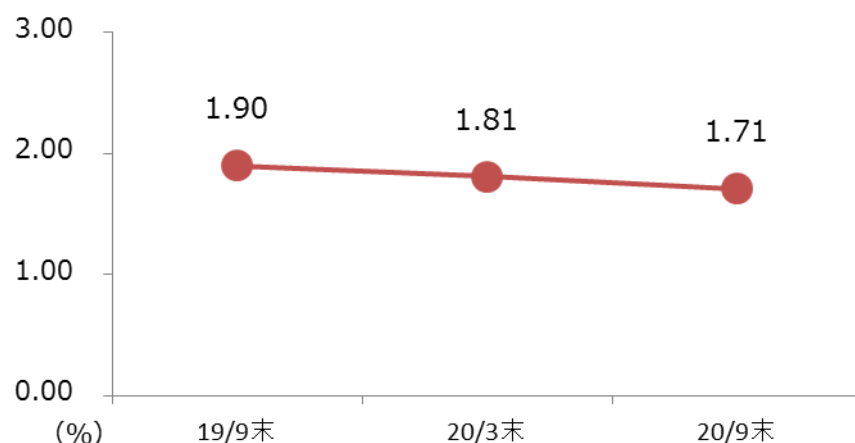
【与信関連引当金】

	20/9末	(億円) 前年比
個別貸倒引当金	64	2
一般貸倒引当金	21	7
偶発損失引当金	4	▲0
引当金残高	90	9

【金融再生法開示債権の状況】



【不良債権比率の推移】



9. 2020年度の業績予想

- 有価証券利息減少による資金利益の低下を法人役務の増加と物件費抑制で一部カバー
- 信用コストの影響を考慮して経常利益、当期純利益は減益を予想

(億円、%)

		20年度 (中間期)	20年度 予想	前年比	
1	コア業務粗利益	107	209	3	
2	うち資金利益	95	183	▲ 5	
3	うち役務利益	11	25	4	
4	経費	86	169	▲ 1	
5	うち人件費	46	90	1	
6	うち物件費	33	65	▲ 3	
7	コア業務純益	20	40	4	
8	コア業務純益(除く投資信託解約益)	15	31	10	
9	有価証券関係損益	25	26	5	
10	信用コスト	23	31	14	
11	経常利益	21	28	▲ 11	
12	当期純利益	13	26	▲ 5	
13	貸出金	平残	14,128	14,474	1,715
14		利回り	0.91	0.91	▲ 0.06
15	預金	平残	18,397	18,639	1,106
16		利回り	0.01	0.01	0.00
17	有価証券	平残	4,634	4,463	▲ 519
18		利回り	1.53	1.35	▲ 0.18

10. 新型コロナウイルス感染拡大への対応

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けられた方へのご支援や事業継続のための対策を実施

お客さま向けご支援

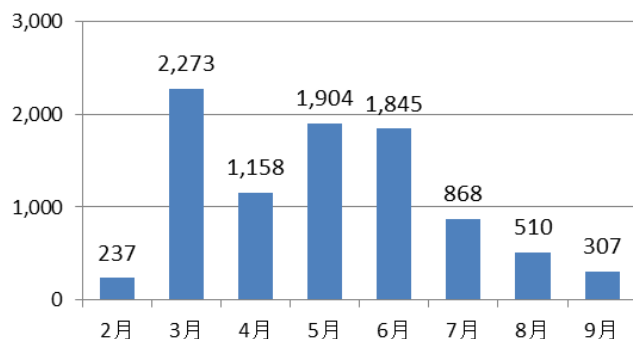
- ・事業者の方向けに「がんばろうファンド」「新型コロナウイルス関連特別融資」の取扱いを開始
- ・個人の方向けに、住宅ローン等返済方法変更手数料の免除や多目的ローンの新規融資金利引下げを実施
- ・2020年11月より「資本性劣後ローン」の取扱いを開始、伴走型支援を強化

【新型コロナウイルス関連融資】

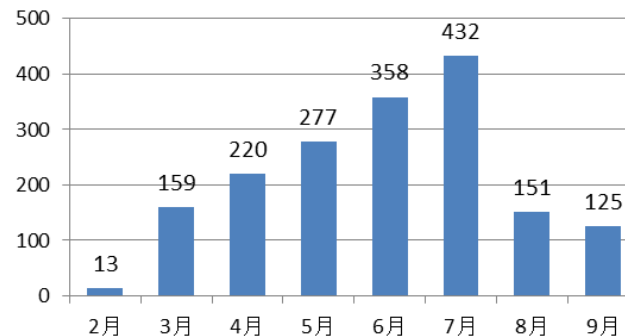
(件、億円)

		2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末	9月末	累計
相談件数		237	2,273	1,158	1,904	1,845	868	510	307	9,102
融資実行	件数	33	553	531	929	1,562	1,725	726	619	6,678
	金額	13	159	220	277	358	432	151	125	1,735
条件変更申込数		0	9	93	132	190	212	219	241	1,096

新型コロナウイルス関連融資月別相談件数



新型コロナウイルス関連融資月別実行額



本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は経営環境の変化等により、異なる可能性があることにご留意ください。

<ご照会先>

中京銀行 総合企画部 企画グループ
担当 八木、山

TEL (052)249-1613

FAX (052)252-5921

URL <http://www.chukyo-bank.co.jp/>



中京銀行

